

人気の道の駅へ 那須、房総、秩父、伊豆、奥飛騨、淡路島など

旅行
読売

定価 **440**円

人気の
道の駅へ



日帰り納涼クルーズ

40年の想いが実現、プータンへ

大型インタビュー

八千草薫さん

平泉&小笠原諸島 世界遺産に登録

9

2011

日帰り 乗船券 プレゼント 付き 納涼クルーズ

暑い日本の夏、涼を求めて日帰りの船旅に出かけよう。東京、名古屋、大阪周辺にはレストランシップから急流下りまで様々な船旅がある。

読者特典「乗船券プレゼント」の応募方法は136頁を参照。

灼熱の東京の真ん中で涼をとろうと、日本橋から「お江戸日本橋舟めぐり神田川コース」のボートに乗り、日本橋川、神田川、隅田川を巡った。川から歴史を眺める1時間30分のミニクルーズだ。

日本橋架橋100年目の今年4月に日本橋船着き場が竣工し、運営する江戸東京再発見コンソーシアムはこれを利用した川巡り観光を本格スタートさせた。2年前からの日本橋川コースに加え神田川、深川、小名木川の3コースを6月に新設。今回は1番人気の神田川コースを選んだ。

乗り場は日本橋たもとの「滝の広場」。出発前に青い法被を着たスタッフに予約確認と料金の支払いをすませ、船着き場を下りる。

船は定員10人の電気ボートで、エンジン音が小さく排ガスも出ない。船上を風が吹き抜け、体感温度は地上より3度～5度は低い。

乗船後、歴史資料と、橋に1～45の番号を振った古地図が配られます。「このコースは45の橋をくぐります。橋を見上げる経験はそうないですよ」とガイドの宮加奈子

神田川を進む電気ボート。右上に中央線御茶ノ水駅が見える
(写真：江戸東京再発見コンソーシアム)



かつて江戸城の見附橋だった常盤橋をくぐる
(写真・江戸東京再発見コンソーシアム)



▲日本橋滝の広場の乗船場。救命胴衣を腰に巻いてから乗る(上) 乗船後、古地図や浮世絵などの資料が配られ、ガイドの説明を聞いて川の歴史を学ぶ(下)

	神田川コース	日本橋川コース	深川コース
期日	8月13・16日(★)、 9月1・10★・12★・ 14☆日 (16日は2便。10月以降は要問い合わせ)	8月15・18・20日、 9月2・3・5日 (10月以降は要問い合わせ)	9月10・12日 (10月以降は要問い合わせ)
時間	10時発～11時30分着 ★は12時30分発～ 14時着 ☆は13時発～14時 30分着	10時発～11時着 12時発～13時着 14時30分発～15時 30分着	9時30分発～11時着
料金	3500円	2500円	3500円

※荒天時は中止の場合あり。小名木川コースは要問い合わせ。
プレゼント乗船券はどのコースにも利用可能

江戸から東京の 「水の記憶」をたどる お江戸日本橋 舟めぐり

<日本橋川ほか>

5組10人
乗船券
プレゼント

江戸東京再発見コンソーシアム
☎03-3668-0700

さん(33)。埋め立て地が多い東京は運河が張り巡らされ、昭和初期まではまだ舟運が盛んだった。「地形は幕末の古地図とほとんど同じです。川や橋に残る記憶をたどってほしい」と宮さんはいう。

解説に耳を傾ける。橋のたもとに「一色家が2軒立っていたので錦(二色)橋、同様に後藤家が2軒あったため5斗×2で「石橋」。

「諸説ありますが、シヤレ好きの江戸っ子らしい」と宮さん。

日本橋川に丁字に合流する神田川に出ると、首都高速道路の覆いがなくなり明るい。武蔵野を水源とする神田川の上流は、「江戸の上水道」。水道橋の地名はその名残で、現在より少し下流にあった旧神田上水の「懸桶(かけひつ)」（川を渡す木製の水道橋）に由来する。

飯田橋辺りから兩岸が深く切り立って谷底のような景観になる。この下流は江戸初期、仙台藩が神山を掘削した人工水路なのだ。そそり立つ川岸に緑が茂り、その上をオレンジや黄色の電車が走る。

「いつもは中央線から見下ろしているので新鮮です」と、国分

【乗り場】日本橋「滝の広場」/地下鉄半蔵門線・銀座線三越前駅B6出口からすぐ、または地下鉄銀座線・東西線日本橋駅B12出口から徒歩2分(回)なし【予約】不要(予約優先)



神田川の御茶ノ水付近は、神田山を掘削して水路をひらいたため川岸が高い。正面の聖橋は、ニコライ聖堂と湯島聖堂を結ぶため名付けられた



地下鉄丸の内線の路線の下を船でくぐる、という興味深い現象が起こる神田川コース



隅田川から見る清洲橋と東京スカイツリー。「ほかのコースでも見られますが、ここが一番きれい」とガイドの宮さん

寺市から来た内藤貴裕さん(25)。地下鉄職員の内藤さんは、川を横断する丸の内線の線路が近づくと、珍しそうにカメラを向けた。

その直前に抜けるのが御茶ノ水の聖橋。大正12年の関東大震災後の帝都復興事業で昭和2年に完成。船からの眺めが良いようにデザインされたアーチ状の美しい橋だ。

やがて隅田川に出る。他の船の引き波で船が揺れ、大川と呼ばれた意味を実感する。振り返れば、コース一番の印象的な風景。青い清洲橋に、藍色の東京スカイツリーが重なる。清洲橋はドイツのつり橋をモデルにした女性的で優美な橋だ。男性的な永代橋と対になるよう昭和3年につくられた。

日本橋川に戻り、湊橋や鎧橋を過ぎて再び日本橋へ。資料の「江戸名所図会」には関東大震災まであった魚河岸のにぎわいが描かれている。その頃と今の都会らしい風景を重ねながら船を下りた。

1時間で周遊できる日本橋川コース、江戸下町の情緒を感じられる深川コース、塩の道と呼ばれる小名木川コースもおすすめだ。

文/福崎圭介